

國民學校と國民幼稚園 (四)

— 文部省講習會講述速記 —

倉橋惣三

四六

講義要項

- 一、國民學校教育の精神
國民普通教育の改革——教育審議會の答申——國民學校教育の本旨——「皇國ノ道ニ則リテ普通教育ヲ施シ國民ノ基礎的
鍊成ヲ爲スコト」
- 二、國民學校の教育方針と學科
國民學校の教育の目的の主眼點——國民學校の教育の方法の強調點——國民學校の教科
- 三、國民學校と幼稚園
教育審議會の答申——小學校と幼稚園との從來の關係——幼稚園の國民教育上の位置
- 四、幼稚園の史的考察
フレイベルの幼稚園——我國に於ける幼稚園——人文的、社會的——幼稚園の國民教育性——國民幼稚園
- 五、幼稚園と低學年との聯絡
從來の問題の檢討——從來の低學年と新低學年——教科の統合——綜合教授問題
- 六、幼兒保育者としての國民學校教科の研究
國民學校教科の教授要旨——國民科——理數科——體操科——藝能科——實業科
- 七、我國幼稚園の將來
幼稚園の國民教育的充實——幼稚園の國民教育的普及——國民幼稚園の非階級性と多様性
- 八、幼兒保育者の責務と自重
幼兒保育者の責務——幼兒保育の目的内容と幼兒保育方法の特質——幼稚園と家庭——幼稚園保母の向上と養成——幼
稚園保育者の自重

六 國民學校教科の研究

更にもう一つ問題を進めまして國民學校の教科科目、あれをさういふ本旨に於て考へられて居るのであらうか、それを取扱ふ取扱ひ方に於てはさういふこゝが特に強調されて居るのであらうか、

從來に於きましても幼稚園の先生は小學校の教育に關する、さうした方面の研究は甚だ不充分であつたときに言はれて居ります。これは甚だ良くないことであるが、小學校と幼稚園とは違ふさういふ意味に於て小學校のこゝを研究したところで幼稚園には——子供の將來のためには考へて置かなければならんが——今の保育法には直接參考にはならん。斯ういふやうなこゝを仰しやるにしても、まア一應は理がありげであつたかも知れません。しかし、今度の國民學校の教科及び科目は、あの子供達が行くべき學校の性質を知つて置くためにも皆さんが御研究にならなければならぬのみならず、保育との關係の近さに於ても非常に研究を要するものになつて參つたのでありますが、これを充分に研究するさういふことは容易ではありませんので、極く上つ面の走り方ではありますが、お役に立つ程度のお話を申して置かうと思ふのであります。

(イ)そこで先づ國民科、この國民科には修身、國語、國史、地理、この四つを含んで居るのであります。こゝでこの國民科を見ますと、國民科教授の方針として一番初めにこんな嬉しい言葉で言ひ現されて居るのであります。從來の行き方でありましたならば、國民科はこれ／＼これ／＼のこゝを明かにするこゝ、斯ういふやうに主知的に行くべきところでありませんが、國民科教授の方針としては

皇國ニ生レタル喜ヲ感ゼシメ敬神・奉公ノ眞義ヲ體得セシムルコト

これは幼稚園では出来るこゝではありません。そのまゝ國民觀念を理解させるさういふこゝは中々難しい。日本の歴史、地理、これを詳しく教へるさういふこゝは幼稚園の限度以外でありませう。然しながら、この「皇國ニ生レタル喜ヲ感ゼシメ」るさういふこゝは、これは赤ん坊にも出来るこゝであります。幼稚園の子供には充分出来るこゝであります。また今までしておいでになるこゝであります。さうして、その國民科さういふ、何か斯う偉い知識でも授けられさうなところで、畢竟は神を敬ひ公けに奉ずるさういふ眞義を、本當の氣持ちを、頭で理解させるのでなく體得せしめるのださういふこゝならば

幼児にも立派に出来る。昨日、久留島先生から建國童話のお話を伺つて非常に得るどころがありました。神武の帝が、あの美々津の港をお發ちになる、日向からお送りしました者がお別れをする。あの先生の巧みなる話術は日向の純朴なる二千六百年前の民と同様の氣持ちを持つて目頭を熱くしたのであります。あのお話を皆様が上手になさいますならば、その子供に、美々津が何處だか、或は日向が何處だか、それはまア知りませんけれども、「皇國ニ生レタル喜」「敬神、奉公ノ真義」これを體得せしめることが出来る。來年の二月十一日、私はあの小豆餅を搗合せました餅を幼稚園の子供に頒つことを楽しんで居ります。さうして一緒に喰べようと思つて居ります。次に修身の事について斯ういふことが書いてある。

初等科ニ於テハ近易ナル實踐ノ指導ヨリ始メ道德的情操ヲ涵養シ具體的事實ニ即シテ國民道德ノ大要ヲ會得セシムルコト

幼稚園でやつて居るこゝではありませんか、

躰ヲ重シ家庭ト聯絡シテ善良ナル習慣ヲ養フニカムベシ

幼稚園が先にやつて居るこゝではありませんか。國民科の國語については

國民科國語ハ日常ノ國語ヲ習得セシメ

國語は文字で書いてあるものを讀み、文字で書くと同時に、言葉は話すものであります。その言葉を習得するには話し方といふものが當然重要な位置を持つて來ます。今度の國民科國語では話し方が重要な位置を持つて居ります。その話し方についてさういふことが書いてあるか

話シ方ニ於テハ兒童ノ自由ナル發表ヨリ始メ次第ニ之ヲ醇正ナラシメ併セテ聽キ方ノ練習ヲナスコト

これは幼稚園でやつて居るこゝではありませんか、以後、幼稚園でやつて居るこゝではありませんかといふことを一々言ふのは億劫ですから、斯うします(机を叩く)

發音ヲ正シク抑揚ニ留意シ進ミテハ文章ニ即シテ適宜語法ノ初歩ヲ授ケ醇正ナル國語ノ使用ニ習熟セシムルコト
(机を叩く)

國民科國史については

初等科ニ於テハ肇國ノ宏遠皇統ノ無窮列聖ノ鴻業忠良賢哲ノ事蹟舉國奉公ノ史實等ニ即シテ皇國發展ノ跡ヲ知ラシ

(机を叩く)

斯ういふ難しいことを斯ういふ難しさでやつて居るのではありませんが、今までの國史話、歴史話はこれではありませんか、殊によつたら歴史を歴史として覚えて居なければならん、年代が試験に出たら大變だといふのでなく、皆さんが歴史は過去のことにあらずといふことで表現せしめる時に實に〳〵體得されることであります。

(ロ) 理數科といふのは算數と理科が入つて居りますが、理數科全體について先づ斯う言つて居ります

理數科ハ通常ノ事物現象ヲ正確ニ考察シ處理スルノ能ヲ得シメ之ヲ生活上ノ實踐ニ導キ合理創造ノ精神ヲ涵養シ國運ノ發展ニ貢獻スルノ素地ニ培フヲ以テ要旨トス

と書いてあります。これは一寸難しいのでありますが、これが實際の取扱ひの方に行きますと斯ういふ嬉しいことが書いてあります。理數科の教授方針として五つばかり書いてあります。

分析的論理的ニ考察スル力ヲ養フト共ニ全體的直覺的ニ把握スル態度ヲ重ンズルコト

(机を叩く)

理科大學の學生は實に實に分析的で、實に實に論理的に自然の總てのことを研究してくれなければなりません。が然しながら兒童を相手にした國民教育としての理數科は理學者を作るのではないから全體的に直覺的に把握する。この言葉はこのまゝには使ひませんが、幼稚園の觀察の生命であつたではありませんか、蝶々が居る。花の下に何がある。分解して何がある。顯微鏡で見て何がある。さういふのでなく、蝶を全體的に見て把握する。ボンヤリではないのです。分析しないが全體的といふものがある。論理的ではないが直覺といふ大きな世界がある。理解するといふよりも把握するといふ大きな働きがある。これが國民學校理數科八ヶ年を通じての教育方針になつて居るのであります。

初等科ニ於テハ數・量・形ニ關スル日常普通ノ知識・處理方法ヲ授クルコト

數學を教へよといふのではない。「數・量・形ニ關スル普通ノ知識」を與へる。また「處理方法」を與へる。殊にまた理科についでこんな嬉しいことが書いてあります。

初等科ニ於テハ兒童ノ環境ニ於ケル自然ノ觀察ヨリ始メ

この觀察は幼稚園で使つて居る。あの觀察を引いて來たさそんな都合よく解釋しなくともいふ、あゝ幼稚園のを奪つてしまつたと言はなくともいふ、言はなくとも宜しいのですけれ共、さういふことが、學理より始め、論理より始め、理論より始めを書いてないところに嬉しさがある。

日常普通ノ自然物自然現象其ノ相互竝ニ人生トノ關係人體生理及ビ自然ノ理法ト其ノ應用ニ關スル事項ヲ授クルコト
さういふことをこゝに現して居ります。

自然ニ親シミ、自然ヨリ直接ニ學ブノ態度ヲ得セシムルコト

實に觀察ではありませんか、その次に

植物ノ栽培、動物ノ飼育ヲナサシメ生物愛育ノ念ニ培フト共ニ繼續的ノ觀察實驗ニヨリテ持久的ニ研究スル態度ヲ養フコト

實に幼稚園そのものではありませんか。その他のこと皆この通りであります。これだけのことを申しましたが、これだけのことを申しましたが、如何に今回改正されたる國民學校が、貴君方が子供のためにこれこそ本當の教育方法であること、斯う信じてやつて居られましたこと、同じ原理に基くものであるかが分るではありませんか。而して私が今讀みましたやうな點は國民學校の中でも恐らく低學年に於て最もその充分なる姿を現はすものに相違ないと思ふのであります。

七 我國幼稚園の將來

(一) 傳統を離れて

今まで申上げたやうな次第でありますから、これからの幼稚園は益々國民教育的に充實して來なければならんといふことは當然であります。今までは或は人道的に充實し、或は個人心理的に充實し、或はさうしたものに上に乗つて居ります教育者その人の宗教、或は藝術と言つたやうな點が非常に強く出て來て居つたのであります。これからは國民教育的に充實させなければいかにこゝになります。こゝで國民教育的に充實させるといふことは果してさうすることであるか、これはあきでまた申上げることに致しますが、兎に角これを一刻も我々の念頭から去らないやうにしなければなりません。

もう今日に於きましては、フレーベルの幼稚園を受繼いで居るのでないことはつきりして参りました。今までこそ我々は決してフレーベルの幼稚園を受繼いで居つたのではない。我々の幼稚園へフレーベルの精神を借り、フレーベルの方法を借りて居つたことはありますけれど、日本の教育施設としての幼稚園そのものはフレーベルを受繼いで居つたのではないのであります。そんなら何を基にして幼稚園を造るかといふ時に、今までは稍々區々であつたかも知れません。心理的、人文的、社会的であつたといふ譯であります。國民學校に連なる國民幼稚園としては實にそこがはつきりして参るのであります。即ち之れからは、幼稚園と言へば直ぐその歴史的起原に還つて行くといふ、あの考へ方を断ち切りまして、こゝに新しく國民幼稚園を造るといふ考へ方で行かなければならぬのであります。内容に於て必ずしもフレーベルに反對するのではない。フレーベルの勝れたる教育的意見、教育的方法、教育原理、これを我々は充分取入れて参るのであります。けれども、我々が幼稚園を造る意圖、本當の魂は、フレーベルによつて出来たあのやり方に感激して幼稚園を造るさういふではありません。日本の幼児教育をするがために幼稚園を造る。さうして、そのためにはいろいろの教育方法は何んでも採用し來り、これからもまた良き方法を採用する。こゝにいふ順序であります。即ち幼稚園を傳統によつて考へないで日本の幼児を教育するにはさうしたらいかいふことに純粹に立脚して、そこから幼稚園を出發させて行くといふことが必要と思ふのであります。

(一)更に國民幼稚園である以上には、その内容の本質を國民教育的に充實するのみならず、國民教育的に普及せしめなければならぬと思ふのであります。これは幼稚園令が出ました時に、幼稚園は學齡前幼児のために極めて必要なものである。而してその學齡前幼児の保育は家庭が主になるべきである。しかし、近時の社會趨勢は家庭をして、その任務を充分に果さしめることがだん／＼困難になりつゝある。かるがゆゑにさういふところに向つて幼稚園を造ることが急務である。斯ういふことを言はれて居りました。私共は實に適切な考へ方だと思ふ。而してこれは幼稚園の社會的任務の強調であるといふことは直ぐ判るのであります。然しながら、それはそれで素より實際問題として誤りなき考へ方でありませんが、今度は國民鍊成といふことに基礎を置くのだとするならば、生活層などに拘らず、都市農村に拘らず、國家は國家全般のこゝとして、普遍的に留意しなければならぬといふことになります。幼稚園義務制を主張される方は、この趣旨を徹底させようと思はれるのであると思ふのであります。義務制にするこゝによつて初めて幼稚園が日本の學齡前幼児全體

を抱擁するところになるのでありますから、それは最も徹底的なことであります。たゞその實現は必ずしも、明日直ぐにこいふことは望みにくいのでせう。そこで、義務制になることは寔に結構なことを、望ましいことであり、それを理想としてつぎめたいのですが、併しながら、義務制を待つ間にも大に普及をはかることに力を用るなければならぬのであります。

私は公立幼稚園が澤山に出来ることを希望致します。公立幼稚園は、即ち國家及び國家の意圖に基く自治體が施設するところのものであります。幼稚園設置義務制、これを目ざしてゐるのであります。斯うなつて参りましたならば、入園義務も亦當然に實現し得ることになるのであります。斯うなることは實に一番望ましいことであります。しかし現状に則して考へますならば、今日我國の幼稚園の中に大きな位置を持つて居りますところの私立幼稚園によつても、大に國民幼稚園としての普及を圖りたいのであります。これは設置義務制といふことは無關係であります。入園者の普及は大にはかれるのですから之れ亦結構だと思ふのであります。たゞその場合私立幼稚園の方々が、即ち公立幼稚園以上に、その人その人の獨自性が出易しい幼稚園が、即ち自分の教育意見でやつていらつしやるのが、自分の兒童愛でやつていらつしやるのが、自分の人生觀でやつていらつしやるのが國民教育的充實に於て少しも公立に變らないものでなければなりません。そうすれば、私立幼稚園であつても、公立幼稚園も少しも差はないのであります。そこで幼児に國民教育をしたいと思感せられる方が、その御精神でドシ／＼私立幼稚園を造られ、設立が私立であつても、その目的が個人的であるやうなやり方でなく、我國の幼稚園は皆國民幼稚園であることに充分になりますれば、即ち幼稚園による國民教育の普及がだん／＼に實現されて行く譯と思ふのであります。

(ロ)扱てさういふ風に國民教育的に普及したとしますならば、この幼稚園もまた國民幼稚園たることに於て一つでなければなりません。その點では同一でなければなりません。あそこの幼稚園は斯ういふやり方、こつちの幼稚園は斯ういふやり方、國民教育といふこの本義に於て濃淡がありましたならば許すべからざることであります。そこで、議論でなく實際の問題に引寄せて、私は國民幼稚園の非階級性といふ言葉を假りに使つて見ます。これは甚だ穩當ならざる言葉で、今日の日本人の言葉の中に階級といふ言葉は使はない方がいゝ言葉であります。階級なんてことによつて考へなければならんことはもうないのであります。分りいゝためにこんな字を使つて見ますのは、今日でもまだ幼児教育に生活層の別が随分あると見られるからであります。國民學校に何等の階級性のないことは勿論であります。小學校、特殊小學校

こいふ名前をやめてから小學校に階級性は全然なくなつて居ります。況してや國民學校に階級性のあらう筈はありません。實に日本の子供は悉く同一なる國民學校に於て教育されるのであります。ところが事幼兒の問題になります。また社會的意味こいふ立場から出るものであります。素より階級精神から出るものではありません。社會的こいふ立場から出るのであります。——そこにそんなにやかましく言ふほどの問題でないかも知れませんが、何んもなくまだ勞働階級のためにさか、貧しき人々のためにさか、こいふこゝが大層特別に言はれるのであります。勿論大正十五年の幼稚園令が先程申上げました如く示して居りますが、さういふこゝでは、家庭教育がつかいお留守になり易いのでありますから一層我々は行つてお援けしたいのであります。山の手に幼稚園を造るよりも、勞働する人々の集まつて居る、あのゴチャ／＼して居るこゝろに幼稚園を造りたいこいふのが我々の希望でありますけれども、造つた以上は、それは國民幼稚園を造らうとする考が社會的精神から出て來るこいふこゝ、造つた幼稚園が社會的で何か違つて居るこいふこゝははつきり區別されるべきこゝろ、思つて居ります。それがさうも混同して居て、さうして何だかはつきりした言葉でこゝで言ふのもおかしいやうな差別が出来て居るげに感ぜられるのであります。これは人間は皆同一であるこいふやうな人道論ではない。子供は皆同一に取扱ふべきであるこいふこゝを言ふのではない。そんな意味も私は元より言ひたいけれども、こゝでは一つに國民教育の基本としようこいふ、その意味に於て、實に同一でなければならんこいふのです。私は日本の幼兒教育が國民教育となりました以上、國民幼稚園と名をつけやうと、國民保育所と名をつけやうと、國民託兒所と名をつけやうと、それは大して問題でありません。尤も私は幼稚園とこいふ言葉に非常に引付けられて居りますが、もつて現實的の言葉を使つても差支へありませんが、貧しき人々の子供は託兒所で預かる。富める人々の子は幼稚園にこいふ立前がありはしないか。國民として育てる仕事の上に、一方は上品なる仕事で、一方はそれと少しく違ふやうな感じを伴ふやうな思ひは絶対に許されないのであります。人間を差別してはいかんこいふ抽象論ではなく、國民に差別はないこいふ通念から、さうしてもさうなるべきものこゝ私と思ふのであります。國民幼稚園は、そうした意味で、日本に一種しかあり得ないのです。

(ハ)しかし又、斯う申しますと、氣の早い人は、もう何でもかんでも皆同じやうなこゝをするのだと考へるかも知れません。私は若し——この講習とは離れた話であります——從來の小學校を批評するならば、國民教育機關として非階級的に行つて居りますこゝは寔にいゝが、然しその子供達の住める環境に基いて、その子供達の今住める生活に基い

て、その教育がいろ／＼に多種多様たるべきだといふ原理に於きましては、従來の小學校は聊か不充分でありました。もう少し農村の小學校は、唯、子供が農村的顔をして居るだけでなく、漁村の小學校は何んかなく生臭く、工場の傍の小學校は機械の音で騒がしいといふだけでなく、もつこその積極的意味が發揮されていゝ筈であります。さうも工場の音がしていけないといふが、工場の傍の小學校で工場の音がしなかつたら變であります。さういふところへは聲の大きな先生が宜からうといふ譯ではありませんが、農漁村はぐつこ異つた教育形式が行はれる筈だと思ひます。兎に角今度の國民學校は、そんな邊鄙な所、所謂文化程度の低い所であつても、國民學校たることに於て變りがないけれ共、そこは其の土地らしい教育方法がとられなければならぬといふことは、國民學校として大いに強調されて居るのであります。即ち兒童の生活環境に則して多様でなければならぬといふことを言つて居るのであります。幼稚園も同様國民教育機關として非階級になると同時に、その形態は實に多種多様であることを充分實現しなければなりません。幼稚園は朝何時に始まり、何時に終るゝところである。親が忙しからうが有閑だらうが、そんなことは問題ではないといふ風なことは、全く許されないことです。子どもの家庭生活の事情に應じて、適切に行はなければならないものです。

八 幼兒保育者の責務

次に、さういふやうな意味からしまして、幼兒保育者の責務を自重も感ぜられて來ることは申すまでもありません。その點を、蛇足でありますが附加へて置きますならば、國民幼稚園となつた時に幼兒保育者の責務は何も今まで、さう變るゝといふ譯ぢやない。變るゝするゝ今までが問題になる譯ですが、然し一層我々の責任を重大に感ぜしめる點はあります。「私は子供が好きですから幼稚園をやる」なんといふ自分勝手な言分は絶対に禁じられます。七・七贅澤禁令と同じく、それはその方の趣味の贅澤であります。その人が子供が好きであらうと、嫌ひであらうと、學齡前の子供に國民的教育を與へられなければならぬから保育するといふ方を主にしなければならぬのです。一體幼稚園といふものは教育の中の一審詩的のものであります。詩を解せざる人が幼稚園にゐることは聊か不向きなやうであります。一緒に居られるものは詩であります。何も詩と言つても氣取つたことではないので、そこに動いてゐる氣もちが、詩なのです。詩の中に實にしろけて居る。だけれ共、それほ詩的のものですが、詩で遊んで居るのではありません。愛國者が唄つて居る詩なのでありま

す。愛國精神なく、唯フラ／＼「花が散る／＼、あゝ散る、私も散りたい」なんて、そんなものではないのであります。「櫻花かや、櫻花かや、東に散り、西に散り、あゝ無常だ」とそんな歌を唄つて居るのではなく、あの大和心の花かやさいふ詩なのであります。殊にさういふ意味から、特に事變始まつて以來、幼児保育者の責務は一段々重くなつて居ります。

扱てその責務は重く嚴肅なのですが然し幼児に接するところは常にやさしくないさいかんであります。私は國民幼稚園を強調すると共に、何處の幼稚園に行つても先生は目をギラつかせてゐることを要求してゐるのではありません。國民幼稚園は國民青年學校とは違ひます。國民壯丁訓練所とは違ひます。相手が幼児でありますから、一體が遊び本位で國民意識さいふものミビツタリ合つて居ないかの如く見るものもあります。圖書にしても兵隊さんばかり描かなくとも宜しいのであります。手技にしても實に可愛らしい、無邪氣なものを作り、ホ、ミ笑ひ、ハ、ミ笑ひ、實に和かにやつて宜しいのです。庭もダリアの自然美を抜いて仕舞つて、トマト、ジャガイモでなければいけないさいふのではありません。私は寧ろ、内容に於て國民的自覺の強烈なるものがあればある程、幼児への對し方としては、實に幼児に相應しい方法を探らなければならんミ、強調したのであります。こゝのところが極めて大切であり、又むづかしいところでもあります。

「矢つ張り幼稚園は幼稚園ですヨ」さいふミ「本當に矢つ張り矢つ張りさうやなア」ミ矢つ張りが續く。それでは五日間聴いたが、矢つ張り昔の通りさいふこゝになる。こゝところが「國民幼稚園であるぞヨ、國民幼稚園であるぞヨ」さいふミ、何だかまた變つてしまふ。「今度の講習に行つて來たが、幼稚園も凄エミこゝになつた。」これでは幼児の國民教育は出來ません。そのこゝところが中々言ひにくいのであります。然しそのこゝところを間違へて居る人が世の中にもないこゝところは氣がつくのであります。時間が參りましたから、こゝでお話をやめますが、幼稚園が國民幼稚園なる以上、保母の國民教育的責務は、實に大きくなります。しかも、たゞその精神ばかりでなく、幼児に對しては、こゝまでも幼児の生活特色に基づく保育原理によつてゆかなければならないのですから、國民教育者中の幼児教育者としての、専門的責務は、愈々重大になるのであります。これは言ふまでもないこゝですが、不十分な講演の結論として、之を附け加へて置きます。お互にしつかりやませう。そして國のために盡ませう。

(完)